

春ノ十四表

別法へへのほうなし人界へにんがいへにむまるゝ事は梵天へほんでんへ

よりいとをくだして大海へかいへの底へそこへのはり

のあなにつらぬかんよりもかたし佛へぶつへ

教へけうへにあへる事は億劫へをくこうへに一度へどへあへる

一眼へがんへのかめの浮木へうききへのあなにいらんがこと

し此たひ出家を遂へとげへて仏道へぶつだうへにいらん

とおもふ人木石へぼくせきへにあらずこのめはをの

づからとありあさの中のよもぎはためざる

にゆまがます松にかゝるかつらは千いろに